

YOUTH NPT BLOG 2023

ナガサキ・ユース代表団11期生のメンバーが2026年核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けた第1回準備委員会(2023年7月31日～8月11日、ウィーン)の動向や現地活動を中心にレポートします。

[About](#) [Contact](#)

8月4日

8月4日、早くも会議に参加できる最後の日となりました。昨日、無事サイドイベントも終えたことで、みんなの顔が少し...

[続きを読む](#)

8月2日

こんにちは、ナガサキ・ユース代表団11期の有吉葉奈子🍀です。8月2日のブログを担当いたします！8月2日水曜日...

[続きを読む](#)

8月3日 サイドイベント

こんにちは、ナガサキ・ユース代表団11期の末廣 万葉（すえひろ かずは）です！このブログにて前半を担当いたしま...

[続きを読む](#)

8月1日

ナガサキ・ユース代表団11期の副リーダーをしております、今岡明日美です。8月1日(火)の報告をさせていただきます...

[続きを読む](#)

7月31日

Vienna International Center に無事到着した私たちは写真撮影や建物の確認を行った後会...

[続きを読む](#)

7月29日

皆さま、こんにちは。ナガサキ・ユース代表団11期生です。私たちナガサキ・ユース代表団11期生はウィーンで開催さ...

[続きを読む](#)

YOUTH NPT BLOG 2023

7月29日

2023年7月30日 WRITTEN BY: NAGASAKIYOUTHBLOG

皆さま、こんにちは。ナガサキ・ユース代表団11期生です。私たちナガサキ・ユース代表団11期生はウィーンで開催される「2026年核不拡散条約（NPT）再検討会議に向けた第1回準備委員会」に出席します。

そこで、本日よりメンバー7人の持ち回りでウィーンでの滞在の様子をブログで発信させていただきます。初回を担当します長崎大学大学院教育学研究科1年の平林千奈満（ひらばやしちなみ）です。拙い文章ですが、最後まで読んでいただくと幸いです。

日本時間7月29日、福岡空港より台湾経由でウィーンに出国しました。私自身は久しぶりの海外渡航であったこと、そして台湾近辺に台風があったことでそもそも出国できるのか不安と緊張でいっぱいでした。また、渡航前に調べたウィーンの天気

予報では雨の日が多かったこともとても心配しておりました。（雨女であることは自覚していたのですが、つくづくここまでかと...）

およそ、16時間のフライトを経て現地時間7月30日午前7時頃、ウィーンに無事到着しました。ウィーンに来てみると雨はまったく降っておらず、晴れていました！！ユース7人の会議に向けた熱い想いが届いたなあと一人で実感したところです。（よかった笑）

順調に見える私たちの旅ですが、ここから怒涛の如くドラマが待ち受けております。

①空港から電車でホテルに向かったのですが、乗り換える駅を通り過ぎてしまい、かなり離れた郊外まで来てしまいました。

②急遽、市街地に引き返すべく次の駅で下車しようとしていたところ、ブレーキの利きが悪いということで緊急停止してしまい、40分ほど足止めです。

その後もいくつか予想外のことが起りましたが、無事に目的地に到着することができました！ウィーンの方は本当にお優しい方ばかりで、道中何度も助けていただきました。また、郊外のきれいな街並みを見ることができたことも、今となってはいい思い出です（笑）。

本日のところは以上です。明日以降も、ブログを更新いたしますので、是非ご覧ください。

最後までお付き合いいただきありがとうございました。では、また明日。

ナガサキ・ユース代表団11期生

平林千奈満

7月31日

2023年8月1日 WRITTEN BY: NAGASAKIYOUTHBLOG

Vienna International Center に無事到着した私たちは写真撮影や建物の確認を行った後会議場に向かいました。議場は前に各国代表そしてその後ろにNGOの座席がありました。私たちは後ろのNGOの座席に座ります。会議においては上座が存在するように座席位置には意味があります。そのため国がどのような配置になっているのか気になり確認すると意味を持たせない配慮としてアルファベット順に座席が配置されていました。アフガニスタンから始まりジンバブエで終わります。日本の政府代表はちょうど真ん中に位置しています。10時スタートのジェネラルディベート。10時には会議場に溢れる程の人が、ただ半分くらいの人しか着席せず皆立ち話をしている。定刻通り会議は始まらない。10時7分に議長が登場し会場を静め、ようやく始まる。議長と国際連合軍縮部の中満さん喋ったのちに日本の外務副大臣武

井さんが一般討論を始めた。一般討論のトップバッターということもあってか少し落ち着いた様子であった。

日本の主張内容抜粋：

溝の深化とロシアの核脅威によってNPTも脅威にさらされている。G7広島サミットで出した広島アクションプランに沿った核兵器のない世界に向けた取り組みを求める。核兵器の拡大は軍縮をさらに困難にしそれは容認できることではない。福島放射能排水を海洋に放出する計画は安全かつ人類や環境への影響は無視できるほどである。この計画はIAEAが基準を満たしているという報告書がある。私たちは被爆者と共に世代を超えて核兵器廃絶を訴え続ける。

このブログでは日本の一般討論すべて及び他国の一般討論は記述しないが気になる人はこちらのウェブサイトからアクセスできます。

→ <https://www.reachingcriticalwill.org/disarmament-fora/npt/2023/statements>

13:15からのサイドイベントの準備のためか日本政府団はIAEAのスピーチが終わり会議場を後にする。各国の一般討論が進む中、ベラルーシの名前が呼ばれると会場に参加する人々の背筋が伸び全員が集中して耳を傾けていた。アメリカの一般討論ではロシアと中国の話をするとき少し口調が強くなったように感じたが、基本的に冷静に淡白に主張していた。

1日の一般討論を終え私たちは在ウィーン国際機関日本政府代表部主催のレセプションに招待された。そこで私たちは広島、オーストリアの高校生や広島長崎の県知事市長並びに各大使や外務副大臣との交流をした。普段の大学生活では出会えない人と交流することは刺激的であり貴重な体験ができた。私たちも国際会議に参加することは初めてであり、一般討論はすべて英語でかなり疲れた。ここからあと4日間会議への参加に加えイベントや大使との対面もあるためできるだけ体力を温存しておきたい。

ナガサキ・ユース代表団11期生

梶立人

8月1日

2023年8月4日 WRITTEN BY: NAGASAKIYOUTHBLOG

ナガサキ・ユース代表団11期の副リーダーをしております、今岡明日美です。

8月1日(火)の報告をさせていただきます。

私たちは、①2026年のNPT再検討会議第一回準備委員会の一般討論の傍聴、②平和首長会議主催ユースフォーラム、③日本原水爆被害者団体協議会の家島昌志さんとの面会、④オランダ外務省軍縮局長のIngeborg Denissenさんとの面会を行いました。

①予定が詰まっていたため、会議の一部の傍聴となりました。

マルタ共和国やハンガリー、トルコ、エジプト等の発言を聴きました。今日の会議でも多くの国が、ロシアと北朝鮮の非難をしていました。印象に残っているのはトルコの発言です。

NPTの3つの柱のうちの1つ核不拡散（核兵器国以外への核兵器の拡散を防止(1)）にはいくつかの段階があると述べていました。その段階の1つは、各国の合意を得ること、もう1つは、核保有国がその合意をサポートすることです。多くの国は各国の非難や自分の国が責務を果たしているという主張をしている印象があります。トルコが言うように、全員が歩み寄り核軍縮・核廃絶に前進してほしいです。

また、多くの国がNPTのもう1つの柱である（原発等における）原子力の平和的利用を支持する旨を述べていました。もちろん、NPTの柱であるのでそう述べるのが普通なのかもしれません。しかし、私は原子力あつての平和が実現するのかまだよく分かりません。

NPT加盟国に原発等に反対している国はあるのか気になりました。

②平和首長会議主催ユースフォーラムでは、広島の高校生、現地ウィーンで活動する高校生、ナガサキ・ユース代表団、NGOからの発表がありました。

“NEVER GIVE UP,”（決して諦めない。） “CRY OF THE SOUL”（魂の叫び）

高校生が訴えたこの言葉は、私たち若者、そして被爆者の想いです。

私は、私よりも若い日本の高校生が広島で起きたことや被爆者の声を懸命に訴える姿に感銘を受けました。それと同時に、何十年経っても若者や被爆者の方がこういった活動をしなければならないことが悲しくなりました。

「若い人に声を上げてほしい。」

と私たちはよく言われます。もちろん、私たちとともに核廃絶に向けて一生懸命になってくれる今の社会の中心にいる大人も沢山います。しかし、「若者が声を上げる。」「今の若者は。」と言っている当の大人が、一切耳を傾けてくれないことも現実です。こういった現状に腹が立ちました。しかし、それと同時に私たちと同じように活動している仲間の姿に励まされました。私たちは諦めずに社会に発信し続けなければならないと改めて決意が出来ました。



平和主張会議
ユースフォーラムでの
ナガサキ・ユース代表団11期
の発表の様子

③家島さんとの面会では、家島さんの広島での被爆体験をお聴きしました。一部を紹介します。家島さんは当時3歳、そのときの記憶はほとんどなくお父様から教えてもらったそうです。

被爆当時、お父さんと妹、家島さんは無傷、2人のお姉さんは疎開中、お母さんはガラスが全身に刺さり、近所の看護師に救護してもらった。近所に越してきた親戚の新婚夫婦のうち夫は亡くなり、奥さんはやけどを負い、近所の看護師さんに救護してもらったそうです。奥さんは、25年後に癌で亡くなられたそうです。家島さん自身も何十年もたって癌を発症したそうです。他にも被爆者の方が、肉体的ではなく精神的に、PTSDによってストーブの炎を見るとストーブを蹴り飛ばして火事になったということもあったそうです。私は原爆の恐ろしさが生涯続くことに改めて恐怖を覚えました。

「先達の想いを受け継ぎたい。そして若者にも受け継いでほしい。」

家島さんは、何度もそうおっしゃっていました。日本に住む若者としてしっかりと被爆者の想いを受け継ぎたいです。

また家島さんには原発についてどう思われているかも伺いました。「日本は地震大国。核廃棄物を隠すところがない。」とおっしゃっていました。あくまで私個人の考えですが、私自身は、核兵器と同じ恐ろしい物質を使用する原発には日本であってもどこの国でも反対です。その想いを再認識しました。

他にも、アメリカの学校を訪れた際に、現地の子ども達も日本の戦争のことをしっかりと勉強していることを聞き、どのような教育が行われているのか興味を持ちました。

最後に、「社会の中心にいる大人に若者の声を聞いてもらうにはどうすれば良いか。」と尋ねました。家島さんは選挙の重要性を訴えられました。私は、ユースの活動以外にも、環境問題と向き合う団体等に所属しています。様々な団体に所属し、家島さんと同じように選挙は大切だと考えています。1人に1つ与えられた大切な権利をこれからも多くの人に使ってもらえるよう呼びかけたいです。それと同時に、投票したいと思えるような大人が増えることも願っています。



④Ingeborgさんとの面会では、オランダの核兵器に関する考え等を伺いました。オランダは、NATO加盟国、アメリカと核共有をしている国（アメリカの核兵器を自国においている国）です。しかし、核に依存している国の中で、核兵器禁止条約の第一回締約国会議に反対の立場でありながらもオブザーバー（傍聴者）として参加をした国でもあります。

Ingeborgさんとの対話を通じて、私は、多くの核に依存している国が安全保障のために今は核兵器が必要であるという考えを持っているのではないかと思います。それと同時に、私自身も昨今の状況を踏まえると、そういった国々の考えを理解することもできます。しかし、私には、「被爆者の方に核廃絶のその瞬間を目で見てほしい。将来世代にまでこの問題を抱えてほしくない。」という想いがあります。今回の面会を通して、私たちの「核廃絶」という願いが少しでも世界を動かす大人に伝わったことを願います。

他にも、オランダでの「平和教育」について伺いましたが、オランダでは歴史の一環で触れられるそうです。より多くの人に長崎と広島を「ただの歴史」ではなく、「現在の問題」と結びつけ、また、当時生きた人々の1人1人のことを世界に発信する必要があると改めて実感しました。



今回のブログは以上になります。皆さんもこの機会に核兵器について改めて考えていただけたら幸いです。

以下に、今回出てきた重要な用語を記載しています。もしよろしければ併せてご覧ください。

- ・ NPT・・・核兵器不拡散条約。主に、核不拡散（核兵器国以外への核兵器の拡散を防止）、核軍縮（核兵器を徐々に減らすこと）、（原子力発電等における）原子力の平和的利用の3つの柱からなります。(2)

- ・ NPT再検討会議・・・5年に一度NPTを再検討する会議。

- ・ NPT再検討会議-準備委員会・・・5年に一度のNPT再検討会議に向けた会議。再検討会議の前に、1年に1回、計3回行われる。

- ・ 平和首長会議・・・広島・長崎両市が設立した国連経済社会理事会のNGO。核廃絶を世界中の都市で構成されている。加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かすキガ・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力し、もって世界恒久平和の実現に寄与することが目的。(3)

- ・ 核兵器禁止条約・・・「核兵器の非人道性」を根拠に、核兵器の開発、製造、保有、使用を禁じる条約。(4)日本は、非加盟、第一回締約国会議不参加。

- ・ 核共有・・・他国の核兵器を自国内においている国

- ・ オブザーバー（傍聴者）・・・締約国ではない国やNGO等が会議を傍聴すること。意見を出すことも可。

より詳しい情報は各種SNSやRECNAのホームページ等をご覧ください。
私たちの活動の様子のご覧、ご質問等も、各種SNSにてお待ちしております。
ありがとうございました！

引用文献

(1)(2)外務省「核軍縮・不拡散 核兵器不拡散条約（NPT）の概要」（2021）

(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/npt/gaiyo.html>)

(3)平和首長会議 「平和首長会議とは」

(<https://www.mayorsforpeace.org/ja/about/outline-mfp/>)

(4)NHK 国際ニュースナビ 「【詳しく】核兵器禁止条約って？ロシアの軍事侵攻の影響は？」（2022）

(https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/qa/2022/06/20/22972.html)

【参考】

「ナガサキ・ユース代表団」

・ホームページ：<https://www.pcu-nc.jp/nagasaki-youth/>

・Instagram：@nagasaki_youth_delegation

・Twitter：@nagasaki_youth

・Facebook：nagasakiyouth

・Mail：ll.nagasaki.youth@gmail.com

【RECNA】

・ホームページ：<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/>

(文責:今岡明日美)

8月2日

2023年8月5日 WRITTEN BY: NAGASAKIYOUTHBLOG

こんにちは、ナガサキ・ユース代表団11期の有吉葉奈子🌸です。8月2日のブログを担当いたします！

8月2日水曜日、私たちはまず、10時から始まるNGOセッションに参加しました。セッションでは、被ばく者の家島昌志さんや、鈴木長崎市長のスピーチを聞きしました。鈴木市長の最後の言葉「Make Nagasaki the last war time atomic bombing site」が印象に残っています。国連の会議は想像以上に淡々と進み、もの申したくなるような内容が聞こえてくることも多々ある中で、鈴木市長のこの強いメッセージは、声量も相まって、一味違うものでした。

しかし、NGOセッションの際に参加している国がかなり減っていたことは非常に残念でした。私たちの声を聞こうとしない、興味を示さない人をどのように巻き込

み、どのような方法で発信することができるのか、改めて大きな壁にぶつかりました。

また、日本政府の方針では、核兵器が使われない世界を訴えてくれています。しかし、核兵器を持たない、核共有しない、これらのことは公言してくれません。「広島ビジョン」に賛同すると言います。核を使わない、ということだけではこれまでと何も変わらないと思います。核を使わなくても、使う気がなくても、核を持っているは、核共有しては、事故でどこかの誰かを傷つけてしまうかもしれない、国民はさらに核の脅威にさらにさらされることになる、核戦争に巻き込まれるかもしれない、そのようなリスクについては考えてくれないのでしょうか。

11時から是在ウィーン国際機関日本政府代表部の引原大使、今西公使とお話させていただきました。お二人とも私たち若者が今まで感じてきた様々な疑問一つ一つにお答えしてくださいました。核兵器に関する国際情勢や、長崎・広島、そして私たち日本の若者とのつながりについて議論しました。



お昼には、朝から自分たちで作ったサンドイッチを近くのカフェのテラスで食べました。今日は久しぶりに天気が晴れたので、暑かったですが心地よかったです。昼食後は在ウィーンスーダン大使にお会いしました。議場がある街とは異なる雰囲気、石畳のヨーロッパらしい街でした。大使はとても気さくな方で、飲み物やチョコレートなどをくださいました。おいしくいただきました。私たちはこれまで核兵器に関することを中心的に学習してきたこともあり、スーダンの情勢の理解は難しかったですが、これを機にもっと視野を広げていこうと思います。



夕方17時半からは、ジュネーブ軍縮代表部の小笠原大使にお話を伺いました。時間が短く、自分たちの考えを伝えることができなかつたことが非常に悔やまれますが、今の日本の立場、理由、言い訳、表向きの言葉、、、を聞き、自分の今までの活動は無駄だったのか、これからもこのように言い返されては何も手打ちができないのか、私たちの真の声を届けるためには何をしたら良いのか、悔しく、絶望や不安、迷い、様々な負の感情を抱きました。



今日は、世界における自分の国の立場を改めて知り、私のこれまで、そして今後の活動を見直す機会になりました。また、今日は姉の誕生日でした。直接お祝いでき

ませんでした、お姉ちゃん、お誕生日おめでとう（笑）

担当：有吉



8月3日 サイドイベント

2023年8月5日 WRITTEN BY: NAGASAKIYOUTHBLOG

こんにちは、ナガサキ・ユース代表団11期の末廣 万葉（すえひろ かずは）です！
このブログにて前半を担当いたします。拙い文章ですが、最後までお付き合い頂きますと幸いです。

さて、8月3日の13時15分から14時45分のランチタイムにconference room M4にて
サイドイベントを行いました！タイトルは「Waiting peace -uniting people with
Japanese Calligraphy-」です：)

私たち11期はこれまで「長崎を最後の戦争被爆地に」という想いのもと「人と人との
つながり」をテーマに活動してきました。長崎からのメッセージを知り、共有
し、伝えるために国籍や年齢など様々なバックグラウンドを持つ人々と交流し、そ
の中で、「平和」に関する考えは多様で混在しているのだと学びました。全ての人

は「平和な世界」を望んでいるはずなのに、その「平和な世界」の定義やそれを実現するための方法は星の数ほどあります。そのため、「平和な世界」という共通の目標があるにも関わらず、それを実現するための方法などを巡って対立してしまうことも多々あります。私たちは、人々の考える平和がどんなものなのか知りたい、そしてそこから共通点を見つけ、「平和な世界」をより具体的なものにし、より強固な繋がりを持ちたいと思い、このイベントを企画しました。

サイドイベントは常にNPTの会議と同時並行で行われています。他のサイドイベントと差別化し、できるだけ多くの人に興味を持ってもらえるような私たちがらしいサイドイベントにするためにはどうしたらいいか。たくさん話し合っ、日本の伝統であり、お硬い雰囲気にならず、自然体でコミュニケーションをとるためのひとつの手段となる書道を選択しました。書道は、習字と違って答えがなく、筆跡にその人の人となりが見れる芸術です。「平和」にも答えがなく、その人その人の経験や理想によって形づけられるものです。どちらも「答えがない」という部分が共通しており、また、参加者に日本の文化を体験してもらっただけでなく、書道を通して自分の考えを整理し、伝える機会を作れるということで、書道とサイドイベントを結びつけました。

長い時間をかけて一生懸命準備したサイドイベントがついに始まります♡

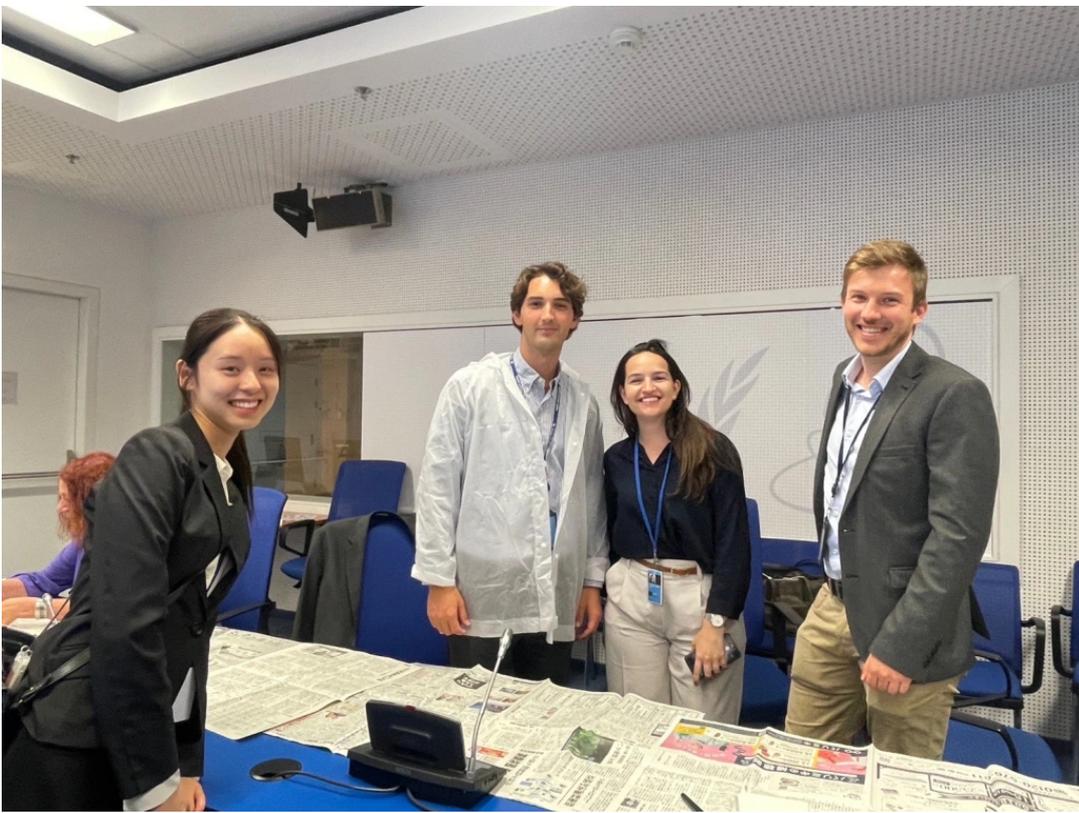
長崎大学で6月に同じイベントを行った際、参加者が書いてくれた「平和への想い」は部屋に飾ったり、ショートムービーにして流したりしてしっかりとウィーンの人々に届けてきました！イベントには長崎県の大石知事、長崎市の鈴木市長、在ウィーン日本大使館の今西公使にもお越しいただき、ご挨拶をしていただきました。また、それぞれ「平和への想い」も書いていただきました。

初めは、同じ時間帯に別の若者団体がサイドイベントを開いていたこともあり、なかなか人が集まらずドキドキしました。たまたま同じ時間だったのか、それとも意図的になのかは分かりませんが、若者団体を同じ時間にするのはどうなのかな、とモヤモヤしてしまいました、、、。イベントが始まって少しすると、呼び込みの成果なのか、部屋の中から聞こえる長崎の人々の声につられてなのかは分かりませんが、だんだんと人が集まり、最終的には約20人ほどの方にお越しいただきました。NPO関連の方だけではなく、他国の大使やCTBTOの職員の方などにも来ていただきました。リーダーの梶さんによるプレゼンテーションと長崎の人々の平和への想いをまとめた動画を視聴していただき、「長崎を最後の被爆地に」というメッセージを参加者に伝えてきました。

その後、日常の小さな幸せは何か、あなたにとっての平和とは何か、それらに共通点はあるか、という3つのアジェンダに沿ってディスカッションをしました。わたしがファシリテーターを務めたグループでは、帰る家があること、明日の心配をしなくてもいいこと、好きなものが食べられることが日常の幸せ、という意見が多く、「平和」の重要な要素として「信頼、食、対話、理解」の4つがあげられるという結論になりました。ディスカッションを通して、平和とはただ暴力のない状態

ではなく、心が平安な状態、つまり、日常の中にある小さな幸せを見つけることができるくらい穏やかな状態のことなのかなと思いました。





次に、ナガサキ・ユース代表団11期生の平林 千奈満（ひらばやし ちなみ）の方から、サイドイベントの様子をお届け致します。私のグループでは、4人の参加者の方とドイツのメディアの方の5人の方に参加していただき、出身国も母国語も様々でした。

まず、グループに分かれて自己紹介をしました。その際に全員の方から日本の文化や食文化が好きだと言っていました！そこから、お互いの国や文化について少し話し、交流を深めることができました。改めて、自分の国や文化を他国の方に認めていただけることは本当に嬉しいことだなあと実感しました。今回のサイドイベントでは「書道」という日本の文化を方法として、糸口として用いましたが、文化を通じた交流というのは互いの興味関心を高めるのみならず、異なる背景を持つ他者とのつながりを生み出すことができるのだと学ぶことができました。また、他者を認め、尊重しながらコミュニケーションを図ることが、他者を理解し、心と心の交流をする上で大切であり、平和を築く上で重要なことだと思いました。

その後、「平和への想い」を筆ペンで書いていただきました。グループでディスカッションしていた際にドイツ語が話題に上がったのですが、日本人の方は“Durch Leiden Freude”（苦悩を突き抜け、歓喜に至れ）とドイツ語でメッセージを、ベルギーの方は日本語で「怖くない」とメッセージを書いて下さいました。このメッセージを書く際にも、グループで協力して言語を教え合う姿がありました。短い時間でしたが、全員がつながることができたのだと思いました。ディスカッションの際に、私たちのグループでは平和な世界をつくる上で「対話」がキーワードではないかと考えました。ディスカッションそして書道に取り組みされる姿をみて、改めて「対話」によって互いを理解し、つながることの重要性を実感することができました。

サイドイベントそして、長崎で行った同イベントでいただいた皆さまの「平和への想い」を長崎に持ち帰り、皆さまにお伝えすることで、長崎とウィーンを繋げていきたいと思ひます。

最後になりましたが、サイドイベントに参加して下さった皆さま、本当にありがとうございました！！







ナガサキ・ユース代表団11期生

末廣 万葉

平林 千奈満

8月4日

2023年8月11日 WRITTEN BY: NAGASAKIYOUTHBLOG

8月4日、早くも会議に参加できる最後の日となりました。昨日、無事サイドイベントも終わったことで、みんなの顔が少し穏やかになった気がしました。さて、Vienna International Centreへ足をはこぶ最後の日となりましたが、本日もたくさんの予定が詰まっており、最後の最後まで充実した日となりそうです！本日は午前中にIAEA (国際原子力機関)を訪問、スーザン・ピケット様よりIAEAについての説明等をしていただき、私達の質問にもご回答を頂きました。本物の測定機器等もお見せいただき、とても貴重な時間となりました。



昼食はVICに来る最後の日だからということで、みんなで食堂へ行き、それぞれが好きなものを食べました。（お皿に取ったものの現金しか使えず、ちょっぴりパニックになったのも良い思い出です。）午後からはCTBTO（包括的核実験禁止条約機関）の小宮山様と木島様にお会いし、CTBTOではどのようなことをしているのか、測定の方法や今後の課題等、詳しくお話しいただき、CTBTOについて恥ずかしながらもあまり知識がなかった私たちにとって、素晴らしい時間となりました。そしてコーヒースタンドで休憩したのち、本日は会議を傍聴できる最後の機会であったため、全員で会議場に向かいました。コーヒースタンドのところでメンバーと休憩していると、Andy Weberさんとお会いすることができ、一緒に記念写真を撮っていただきました。Andy Weberさんはオバマ政権時代に核政策を直接担当した国防庁の高官でいらっしゃいました。また、会議終了後には今回議長を務めていらっしゃるJarmo Viinanenフィンランド大使と記念写真を撮っていただきました。



CTBTOの小宮山様と木島様との面会



小宮山様と木島様との記念撮影📷



Andy Weberさん達と📷



議長を務める Jarmo Viinanen 大使とジュネーブ軍縮日本代表部の小笠原大使と📷

夜には今西公使との食事会がありました。食事会という和やかな雰囲気の中、私たちが突っ込んだ質問等をしてしまったのですが、優しく耳を傾けてくださり、美味しいご飯と共に白熱した議論をし、お店の閉店時間がきてお開きということになりました（笑）普段では到底お会いできない方とこのように貴重な時間を持てたことは、とても光栄です。お忙しい中、お時間を割いてくださった今西公使に感謝申し上げます。※記念写真を撮るのをすっかり忘れていてお写真がありません（泣）

ウィーンに来て早くも1週間が経ってしまいました。毎日、ハードスケジュールで頑張ってきたメンバー全員に、まずはお疲れ様と言いたいと思います。朝からVICに出向き、夕方ホテルに帰った後も、部屋でパソコンに向かっていたメンバーたち。心身の疲労は相当なもので、ホテルに帰るとすぐに寝てしまう日もありました。しかし、そのようなハードスケジュールであったからこそ、1週間という短い時間の中で、さまざまな人と出会い、学び、発信できたのではないかと思います。普通に大学生活を送っていたら会えないような方々とお会いしましたが、上の立場にいるにも関わらず、とても気さくで私たちの言葉に優しく耳を傾けながらも、現実的で筋の通ったお話をしてくださいました。全てが新しく、考えを改める良い機会になったと思います。私たちは8月7日に日本へ帰国すべくウィーンを経ちますが、残りの週末は頑張ったご褒美としてウィーンの街を満喫するとともに、帰国後は学んだことを発信していきたいと思います。



議長席でパシャリ📷

IAEAについて👉

https://www.unic.or.jp/info/un/unsystem/specialized_agencies/iaea/

CTBTOについて 

https://www.unic.or.jp/info/un/unsystem/specialized_agencies/ctbto/

ユース11期 安元和愛